

コロナ禍対策・
音楽家緊急支援
コンサート

幻の天才 大澤壽人の Hisato Osawa 音楽遺産



写真/神戸女学院所蔵資料「大澤壽人遺作コレクション」

2022年
3.13 **SUN**
日

14:00開演(ロビー展示あり)
13:15開場

 神戸新聞 松方ホール

主催:大澤資料プロジェクト・神戸新聞社・(一財)神戸新聞文化財団
後援:神戸商工会議所、(公財)神戸市民文化振興財団、神戸音楽家協会、クラブファンタジー
この公演はKOBEOアート緊急支援事業(舞台芸術施設支援)を活用しています

プロデュース/生島美紀子 デザイン/森のぞみ

幻の天才 大人澤壽の音楽遺産

春の名曲

CONTENTS

演奏会に寄せて～ごあいさつ～

プログラム

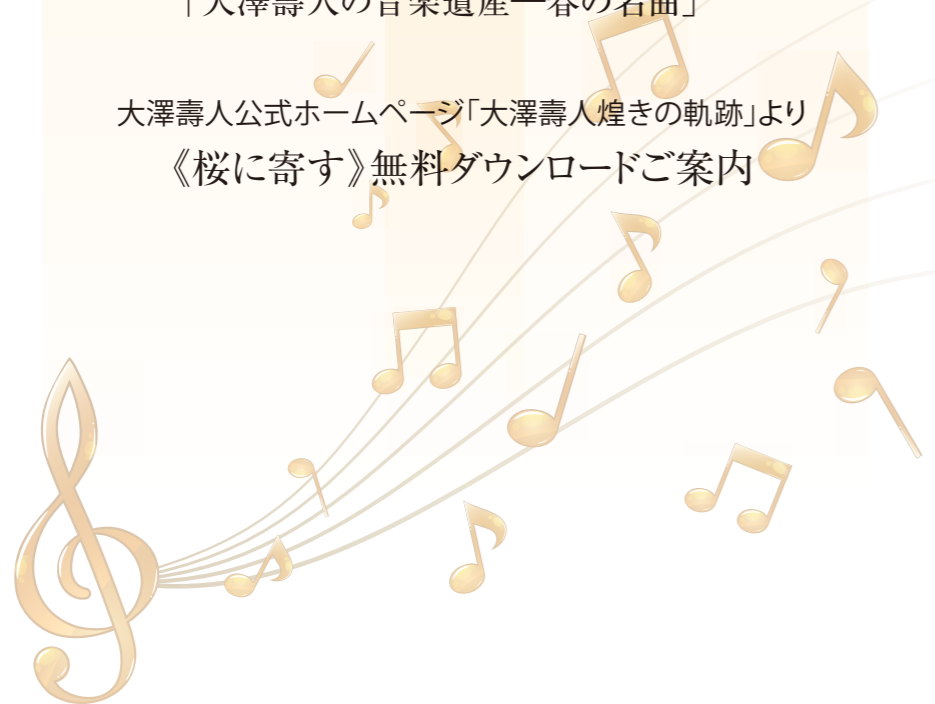
出演者プロフィール

プログラム・ノート

「大澤壽人の音楽遺産—春の名曲」

大澤壽人公式ホームページ「大澤壽人煌きの軌跡」より

《桜に寄す》無料ダウンロードご案内



演奏会に寄せて

GREETINGS

神戸生まれの大澤壽人先生（おおさわ・ひさと、1906-53）は、この20年の間に再評価が進みました。戦前戦後にこれほどの邦人作曲家がいた、と驚きをもって受け入れられています。

戦前に留学先のボストンとパリで大活躍したにも拘わらず、戦後の混乱期に47歳の若さで急逝したため、長らく忘れられた存在でした。

その先生が再び話題となったのは、神戸新聞藤本賢市記者（当時）によるスクープや、評論家片山杜秀氏監修の下にリリースされた代表作CDが、脚光を浴びたからです。これが「平成の復活劇」の始まりでした。

大澤家は同じ頃に、先生の遺品3万点を神戸女学院に寄贈され、大澤資料プロジェクトが5年をかけて学術調査を行いました。その結果、明らかになった業績は、見上げるばかりでした。戦争の時代に「音楽」の役割を問い続けながら、煌めく足跡を残しておられたのです。

以来私たちは、先生の素晴らしい音楽を一人でも多くの方々に聴いて頂きたいと、普及活動に邁進してまいりました。今年には17年目にあたります。

近年はメディアに取り上げられることも多く、市販CDは10種以上。昨年秋にはNHK-Eテレ「クラシック音楽館」で《ピアノ協奏曲第3番》が全国放映され、年末まで三宮の民音音楽博物館で大規模回顧展「大澤壽人 神戸からボストン・パリへ」がロングラン開催され、約2千人が来場されました。

先生の作品は、私たちに喜びを与えてくれます。と同時に、困難な時代を懸命に生きた一人の人間の、精神的な営みを感じさせます。それは今、コロナ禍に生きる私たちに、先生が贈られた「勇気」というメッセージではないでしょうか。

本日の演奏会はKOBEアート緊急支援事業（舞台芸術施設支援）を活用しております。共催の神戸新聞社、（一財）神戸新聞文化財団、そして後援を賜りました皆さまに、心よりの御礼を申し上げます。

大澤資料プロジェクト代表 生島 美紀子

「幻の天才 大澤壽人の音楽遺産」

生島 美紀子 (Lecture)

1部

合唱作品とヴァイオリン作品

F. シューベルト セレナード《聞け、青空にいるひばりを》D. 889
 大澤 壽人 《ABC 朝日放送ホームソング集》より(1953 年)
 春の扉 / 南谷健一 詩・竹中郁 校訂
 ペダルをふんで / 大竹安喜詩
 春の南京町 / 江川恵子 詩・安西冬衛 校訂
 薔薇の花かげ / 牧昇治 詩・安西冬衛 校訂

杉浦 希未(Sop) 村井 優美(Alt)

総毛 創(Ten) 宮尾 和真(Bar) 金月 里紗(Pf)

F. クライスラー 中国の太鼓 作品 3
 大澤 壽人 ヴァイオリン小協奏曲「支那詩」より(1936 年)
 第 2 楽章 Quasi adagio
 第 3 楽章 Larghetto ~ Presto non troppo

眞田 彩(Vl) 須山 由梨(Pf)

ピアノ伴奏版編曲 生島 美紀子、校訂 増田 真結

◆◆◆ 休憩15分 ◆◆◆

2部

ピアノ独奏作品と声楽作品

F. メンデルスゾーン《無言歌集 第 5 巻》より 第 6 曲《春の歌》作品 62-5
 大澤 壽人 富士山(1933 年)
 大澤 壽人 ていちゅうはるさんだい 丁丑春三題(1937 年)

第 1 曲 春宵紅梅

第 2 曲 無為即興

第 3 曲 春律醉心

土井 緑(Pf)

J. シュトラウスII 喜歌劇《こうもり》より
 アデーレのアリア《侯爵様、あなたのようなお方は》
 ロザリンデのアリア《ふるさとの調べ「チャルダッシュ」》
 大澤 壽人 ロンディーノ ピアノ伴奏版 / 立居 寛詩(1936 年)
 大澤 壽人 桜に寄す ピアノ伴奏版 / 大澤 壽人詩(1935 年)

芦原 昌子(Sop) 蜷川 千佳(Pf)

Violin



ヴァイオリン 眞田 彩

Sanada Aya

東京藝術大学附属音楽高校を最高得点で卒業。Arimathea Charitable Trustより奨学金を得て、英国王立音楽院ヴァイオリン科首席卒業。Mortimer Development Award 2005/06、副校長賞受賞。マキシム・ヴェンゲーロフとのマスタークラスDVD発売。21歳にて、ロンドン Wigmore Hallで開催された、1813年設立 Royal Philharmonic Society Emily Anderson Prize(1名)を日本人歴代2人目として、審査員全員一致で受賞。NHK-FM名曲リサイタル、BSフジ番組挿入曲、国内外の式典に多数招待出演。近年は、地域活性化プロジェクトに参加している。

Pianoforte



ピアノ 須山 由梨

Suyama Yuri

神戸女学院大学音楽学部を経て、同大学院音楽研究科修了。在学中に、ハンナ・ギュリック・スエヒロ記念賞、特別伴奏賞を受賞。大学院修了後はイタリアへ渡り、ボリス・ベクテフ氏のもとで研鑽を積む。「KOBE国際音楽コンクールピアノC部門奨励賞」等を受賞。現在、関西二期会オペラ研修所伴奏ピアニスト、Chorus Symphonicus、K.G.合唱の会ピアニスト、関西学院高等部グリークラブ指導員等を務める。

Vocal Emsemble

声楽アンサンブル



ソプラノ 杉浦 希未 Sugiura Nozomi

大阪音楽大学大学院、ウィーン国立音楽大学を卒業。これまでにイタリア、オーストリア、ドイツ、チェコの各地で演奏会に出演。現在神戸市混声合唱団団員、大阪音楽大学演奏員。

アルト 村井 優美 Murai Yumi

大阪音楽大学短期大学部卒業。オペラ、宗教曲のソリストも務める。現在、神戸市混声合唱団団員、大阪音楽大学演奏員、女声コーラス「コール・リーベ」「花音」各指揮・指導者。

テナー 総毛 創 Souke Hajime

大阪教育大学芸術専攻音楽コース卒業。神戸市混声合唱団所属。奏楽堂日本歌曲コンクール入選。故松本幸三、玉井裕子、清原邦仁、北村敏則、松本薫平、の各氏に師事。

バリトン 宮尾 和真 Miyao Kazuma

京都市立芸術大学院修士課程修了。平成28年度公益財団法人青山財団奨学生。第72回全日本学生音楽コンクール大阪大会入選。これまでに声楽を武田節子、上野洋子の各氏に師事。現在、神戸市混声合唱団団員。

ピアノ 金月 里紗 Kingetsu Risa

神戸女学院音楽学部ピアノ専攻卒業。作曲セカンドメジャー修了。現在、西神戸混声合唱団、女声アンサンブル「プティ・タ・プティ」、神戸市混声合唱団ピアニスト。

Pianoforte



ピアノ 土井 緑

Doi Midori

東京藝術大学附属音楽高校、東京藝術大学卒業。ロンドンにてマリア・クルチオ女史に3年間師事。英国王立音楽院大学院を成績優秀にて1年で修了。故ダイアナ妃より修了証書を直接授与される。日本演奏連盟賞受賞。オールショパン作品による5回の連続演奏会の他、オールリスト、オールワーグナー、オール近代作品によるリサイタルを開催。2015年からは「パリで煌めく作曲家達」と題し、多彩で意欲的な活動を東京、大阪、各地で展開、好評を博す。大澤壽人の作品も毎年取り上げ、豊富なレパートリーをもつ演奏家として名高い。現在、大阪音楽大学教授、関西ピアノ芸術連盟役員、関西音楽人クラブ運営委員。

Soprano



ソプラノ 芦原 昌子

Ashihara Masako

神戸女学院大学音楽学部を経て、同研究科修了。日伊コンコンソ金賞、坂井時忠音楽賞、尼崎市市民芸術奨励賞受賞。歌劇では『フィガロの結婚』『魔弾の射手』『ラ・ボエーム』『カルメン』『ばらの騎士』『おなつ・せいじゅうろう』等に主演。特に喜歌劇での評価が高く、『メリー・ウィドウ』のハンナ、『こうもり』のロザリンデ、アデーレ、『ジプシー男爵』のザッフィは、その歌唱力と演技力が絶賛を博した。室内歌劇でも『電話』『泥棒とオールドミス』の主役で、好評を得ている。関西二期会、日本演奏連盟、神戸音楽家協会、尼崎芸術文化協会各会員。

Pianoforte



ピアノ 蜷川 千佳

Ninagawa Chika

神戸女学院大学音楽学部を経て、同大学院音楽研究科修了。ヤマハJOCにてテレビ出演し、2004年ポーランド国立クラコフ室内管弦楽団と共演。ソロの他に伴奏者としても活発な活動を続け、第33回摂津音楽祭において伴奏賞を受賞。大澤壽人の作品によるコンサートシリーズには初回から出演。現在、関西二期会、堺シティオペラ各ピアニスト。神戸女学院大学、四條畷学園高等学校非常勤講師、西宮音楽協会会員。

Lecture



企画&レクチャー 生島 美紀子 Ikushima Mikiko

神戸女学院大学音楽学部を経て、スタンフォード大学大学院修了。音楽学で日本人初のMaster of Arts取得。大阪大学大学院博士後期課程修了。A・オネゲルの研究論文により博士号取得、同論文を出版。2006年より母校で「大澤壽人遺作コレクション」に携わり、編集代表した資料目録『煌きの軌跡』は音楽クリティック・クラブ特別賞を受賞。以来、演奏会や講演会を通して大澤氏の普及活動にあたっている。2017年評伝『天才作曲家大澤壽人』を出版、2019年公式ホームページを公開。現在、大澤資料プロジェクト代表、神戸女学院大学非常勤講師。

大澤壽人の 音楽遺産

春の名曲

Hisato Ozawa

プログラムノート
生島 美紀子

混声合唱 作品

F. シューベルト： セレナード《聞け、青空にいるひばりを》

歌詞となったのはシェイクスピアの詩で、戯曲『シンペリン』に含まれている。この詩にシュレーゲルが独語訳を行い（第1節）、シューベルト（1797-1828）が訳詩を取り上げて1826年に作曲した。恋するクロートンが、ブリテン王シンペリンの王女イモーゼンに歌いかける独唱作品である。

大澤は亡くなる8ヶ月前に《聞け、青空にいるひばりを》を管弦楽と混声合唱用に編曲した。本日お聴きいただく混声合唱パートは、朝日放送ラジオで初演されたその編曲版である。

大澤壽人：ABC《ホームソング集》より

大澤の創作期は、I: 留学前（1922-29年）、II: ボストン・パリ留学（30-35年）、III: 帰国から終戦まで（36-45年）、IV: 戦後から晩年まで（45-53年）の4期に分かれる。《ホームソング集》はIV期に作曲された。

戦中の困難な時期を経験した大澤にとって、「戦後」はさまざまな意味をもった。敗戦後の社会に「音楽による人々の心の復興」を掲げ、そのためには親しみやすく、しかも芸術性の高い「中間層の音楽」が必要だと語った。

そうした音楽を提供する場が、ラジオ放送だった。1950-52年にJOBK（現在NHK大阪放送局）で音楽番組「BKシンフォネット」と「シルバertime」を次々

と担当。52-53年には民間の朝日放送で「ABCホームソング」と「ABCシンフォネットアワー」を並行して受け持った。

「ABCホームソング」からは毎週新しい歌が流れた。第49週まで来たところで大澤が急逝したため、番組は突然に終了となったが、今聴いてもおしゃれな歌ばかりである。本日の4曲は1953年に、早春の2月から春たけなわの4月にかけて放送され、最晩年の作品となった。戦後の荒廃した社会と人々に、大澤が贈った心優しい「歌の花束」である。

なかでも交響曲や協奏曲などの管弦楽大作を得意とし、数ある作品は戦前・戦後の日本洋楽史に燦然たる輝きを放っている。遺された自筆の楽譜1万枚以上が語るように、圧倒的な創作力をもつ世界的な作曲家だった。

大澤は関西学院高等商業学部を卒業した1930年（昭和5）に留学し、海外で目覚ましい成果を収めた。その活躍を挙げれば、1933年（昭和8）にアメリカの名門オーケストラ、ボストン交響楽団を指揮した初の日本人となった。小澤征爾氏が同響常任指揮者となる40年前も出来事である。続いてフランスでは1935年（昭和10）にコンセル・パドゥール管弦楽団を率いて、自作自演の大演奏会を開催。作曲家としても指揮者としても絶賛を博して、華麗なパリデビューを飾った。当時の邦人に稀な、国際的キャリアを築い

た「ウルトラ・モダン」な芸術家だった。

しかし、1936年に帰国して以降、日本は日中戦争から太平洋戦争への道をたどっていた。不穏な社会で音楽活動は容易ではなかったが、創作ジャンルをラジオ放送や映画用の音楽、宝塚や松竹歌劇団の舞台用音楽へと転換し、戦中も途切れることなく作品を書き続けた。

そして戦後は、進駐軍が持ち込んだジャズを取り入れた。シンフォニック・ジャズ編成によるオーケストラを使って《サクソフーン協奏曲》や《トランペット協奏曲》を作曲して、新たな作風をみせた。また、古今の名曲をセミクラシック風に編曲し、ラジオ聴取者たちを啓蒙した。

ことに晩年の3年間における編曲作品数は、作曲作品の総数に匹敵するほどの量である。優れたオーケストレーションと共に、第一人者とし

ての比類ない業績が示されている。

本日の「大澤壽人の音楽遺産—春の名曲」は、そうした実りある作品群の中から、三月にふさわしい選曲をした。「春」にちなむ大澤の名曲と西洋の名曲—どちらもお楽しみ頂きたい。



1933年ボストン大学卒業式



1950年、大阪毎日新聞写す

ヴァイオリン 作品

F. クライスラー：中国の太鼓

20世紀を代表するヴァイオリニストの一人、ウィーン生まれのクライスラー（1875-1962）が、中国を旅行した際に大道芸人が叩く太鼓の音に興味をひかれて作曲したという。バロック期以来の「ヴァイオリニスト＝作曲家」の伝統上に立つ彼が、ロマン派のヴィルトオーソの伝統も受けつぐ作品である。

3部分に分かれ、太鼓を模すピアノの連打に乗って、ヴァイオリンが曲芸のように速いパッセージを奏して始まる。一転して、中間部ではゆったりとしたテンポで感傷的で甘美な旋律を聴かせ、再び速い部分が名人芸を披露して終わる。

大澤はIV期に、本作品を管弦楽伴奏用に編曲している。1951年7月に「シルバertime」で放送初演され、翌月大阪でコンサート初演。53年には「ABC シンフォネットアワー」から再放送された。

大澤壽人：ヴァイオリン小協奏曲「支那詩」

パリから帰国した1936年に作曲されたIII期の作品。日本最初期のヴァイオリン協奏曲の一つである。初演は翌37年、日比谷公会堂に於ける「大澤壽人 作曲指揮交響演奏会」で、新交響楽団（現在 NHK 交響楽団）とヴァイオリン独奏日比野愛次によって行われた。全3楽章の「ソナタ形式—中間楽章—ロンド形式」は、初の留学地ボストン以来、大澤が追求してきた楽章構成だが、本日は第2・3楽章のみ演奏する。

初演時のプログラムでは以下のように解説された。

第2楽章: 諧謔的な即興曲である。一夜香港の裏町で聞いた町の音楽師の印象が^{ほんこん}かすかに含まれて居る。

第3楽章: ゆっくりしたイントロダクションの後、速くて軽い気分を持ったロンドで終わる。終わり近くにヴァイオリン独奏のカデンツァが数度伴奏部と交互に出て来る。

副題の「支那詩」は、クライスラーと同様に、大澤が旅先で聞いた芸人の音楽に惹かれたことを示している。なお、本作品には作曲者によるピアノ伴奏版が存在しないため、リダクション生島美紀子、校訂増田真結による編曲（2017年）で演奏する。



帰国後自作自演の演奏会

ピアノ独奏 作品

F. メンデルスゾーン：

《無言歌集 第5巻》より 第6曲〈春の歌〉

作品名を知らずとも、この旋律を聴いたことがある方は多いのではなからうか。メンデルスゾーン（1809-47）による《無言歌集》は8巻あり、いずれもの歌曲のような美しさで知られている。

1842年に作曲された〈春の歌〉は、「やや速く優美に」と指示されたイ長調の作品。旋律がやわらかに流れ、分散和音が軽やかに装飾する。ときおり聞こえる短調の和音が陰影を深めながら、麗らかな春の音楽が紡がれる。

大澤壽人：富士山

1933年2月に完成したII期の作品。留学中の大澤は、地元のボストン美術館に通って名画に触れた。同館アジア美術部門は充実したコレクションで知られており、大澤はそこで初めて観た安藤広重の木版画に感銘を受け、《富士山》を作曲した。自筆譜冒頭に英語でそう書かれている。

作品は中庸の速さで低音域から始まる。中心となる楽想は、日本の民謡音階に基づいた《鹿兒島小原節》に似た旋律である。遥かな母国への郷愁だろうか。

小品だが、ピアノの広い音域が効果的に使われている。連符の細かなリズムと、鍵盤の上に指を滑らせるグリッサンド奏法によって、波間に旋律が漂うかの印象を生み出している。

大澤壽人：丁丑春三題

「^{ていちゆう}丁丑」という作品名は、作曲された1937年にちなんでいる。十干では^{じっかん}丁、十二支では^{ひのと}丑にあたる年で、フランス人ピアニスト、アンリ・ジル＝マルシェックスが、帰国した大澤を追いかけるように来日し、神戸海員会館で初演した。パリで大澤の《ピアノ協奏曲第二番》を初演したこの親友への献呈作で、III期のピアノ独奏曲を代表する。

3曲から成る《丁丑春三題》はそれぞれが副題を持つ。西洋の作曲法を完璧に身に付けた大澤が、卓越した技術によって「日本の春」を描き出す名品で、創作から85年経った今も瑞々しい生命を保っている。

第1曲〈春宵紅梅〉は大澤が少年の頃から憧憬を抱いたという、ドビュッシーの音楽に通じるものがある。柔らかな分散和音に始まり、最弱音に消えてゆく繊細な音楽で、宵の薄明りや梅の淡い香りまでを感じさせる。

第2曲〈無為即興〉は漠とした印象を受けるが、断片的な旋律や多彩なリズム型などによって、きわめて密に創り出されている。第1曲から第2曲へと、旋律と構造の中心音が同じで、統一感と流れが創り出されている。

第3曲〈春律醉心〉は春爛漫の気分に満ちる。花見の酔客の足取りを模して始まり、宴の賑わいを想わせる《元禄花見踊り》の一節が聞こえてくる。豪華なパッセージが鍵盤上を駆け上がり下がりして、花びらが空中を舞う中で、人々の上機嫌を映し出していく。



1931年ボストンの下宿で

声楽作品

FJ. シュトラウスII: 喜歌劇《こうもり》より
アデーレのアリア〈伯爵様、あなたのようなお方は〉
ロザリンデのアリア
〈ふるさとの調べ「チャルダッシュ」〉

大澤は編曲用に、シュトラウス（1825-99）の作品を好んで取り上げた。有名なワルツ《美しく青きドナウ》を松竹歌劇団の舞踊音楽に用いたり、男声合唱を混声合唱にしてラジオで放送したり、見事な編曲の腕によって原曲を味わい尽くすといった仕事ぶりだった。《こうもり》序曲も、戦後数年の時期に管弦楽の楽器編成を変えて編曲している。

3幕から成る《こうもり》は、1873年に作曲されたシュトラウスのウィンナ・オペレッタである。銀行家や「こうもり博士」こと公証人等の男声陣と、女声二人が重要な役割を担う。銀行家の妻ロザリンデと召使いアデーレで、どちらもソプラノのアリアが知られている。

第2幕はロシア人侯爵邸での舞踏会の場面。二人は名を偽ってやって来ている。アデーレはロザリンデ奥様のドレスを無断着用しているが、侯爵たちに見破られそうになる。それを誤魔化そうと、〈侯爵様、あなたのようなお方は〉可愛い私をしっかりとご覧になってください、女中と間違えるなんて笑いごとだと歌う。

一方、仮面をつけたロザリンデは、ハンガリーの伯爵夫人を装っている。客たちから仮面を取ってほしいと言われ、出自は音楽で証明しますと〈ふるさとの調べ「チャルダッシュ」〉を歌う。チャルダッシュは有名なハンガリーの民族舞曲である。

大澤壽人：ロンディーノ ピアノ伴奏版

1936年にパリの大成功を土産に帰国した大澤は、帰朝演奏会を東京と大阪で開いた。翌37年も同様に、当時の日本で年2回も大作を発表する唯一の作曲家だった。

管弦楽伴奏歌曲《ロンディーノ》はⅢ期の作品で、《ヴァイオリン小協奏曲 支那詩》と共に日比谷公会堂での「大澤壽人 作曲指揮交響演奏会」で発表され、新交響楽団とソプラノ独唱長門美保が初演した。本日は作曲家自身によるピアノ伴奏版を演奏する。

「ロンディーノ」は小型のロンド形式を意味する。「うたはいづみにめぐります」という、やわらかな詩の一行が節ごとに繰り返され、音楽も巡ってA-B-A-C-Aロンド形式を形づくる。その温かな雰囲気、いかにも新作発表の春の季節にふさわしい。

うたはいづみに めぐります
そよかぜに みどりの かげさせば
ほのかに をとめの ふえのねして
はる はる はると みづにうたふ

こころは あをぞらにさり
ふえのね くもとゆくしほし
いこふおもてに うきくさのかげさせば

うたはいづみに めぐります
そよかぜに みどりの かげさせば
ほのかに をとめの ふえのねして
はる はる はると みづにうたふ

みづにみどりのきえて
うたはかぜとさるころも
をとめののぞみはかわらず ふえのねさらず

うたはいづみに めぐります
こころ わかばに かげおへば
ほのかに をとめの ふえのねして
はる はる はると みづにうたふ



【自筆譜】1936年作曲〈ロンディーノ〉



1935年作曲〈桜に寄す〉／ダウンロード版

大澤壽人：桜に寄す ピアノ伴奏版

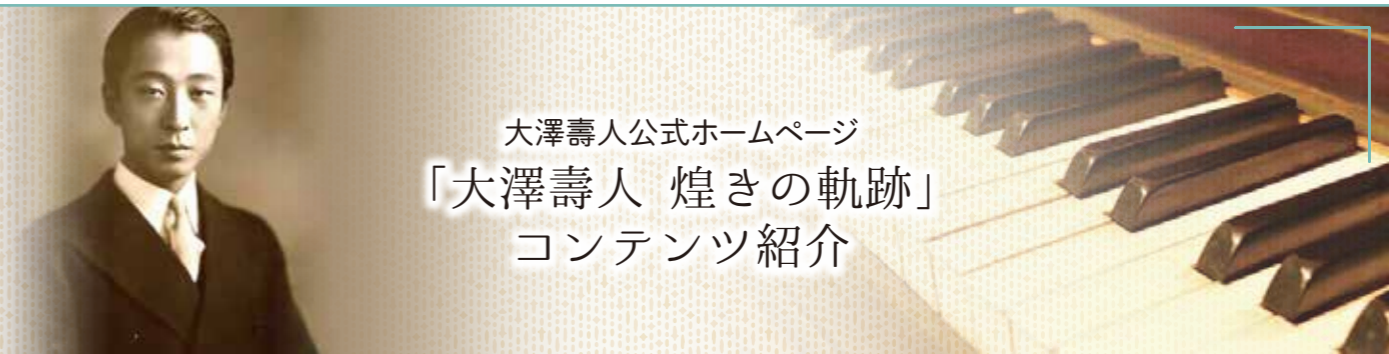
1934年にボストンからフランスに渡った大澤は、翌年に自作自演と指揮による大演奏会を開催。《交響曲第二番》や《ピアノ協奏曲第二番》を発表して喝采を浴びた。Ⅱ期のクライマックスとなる華麗なパリデビューだった。

《桜に寄す》はその演奏会に於いて、ソプラノ独唱マリア・クレンコとコンセル・パドゥール管弦楽団が初演した管弦楽伴奏歌曲で、《さくらさくら》が引用されている。流麗なオーケストレーションが響く中、歌が母音唱で始まり、あふれ出る日本の美がパリの聴衆を魅了した。

素朴な古謡が芸術歌曲に生まれ変わった本作は、私たち日本人が誇りとすべき、大澤の代表作といえよう。本日は作曲家によるピアノ伴奏版で演奏する。

ああ、ふるさとの春の想いは
さくらさくら と歌うころ
弥生の空は 見渡すかぎり 霞みか雲か 匂いぞ
出ずる
(ハミング) 花に慕うとも いにしへのままに歌い
いざやいざや 見にゆかん

なお、本作品の「校訂版浄書譜」が2022年1月より、ホームページ「大澤壽人 煌きの軌跡」から無料ダウンロード可能となった。演奏用に、研究用に、是非ご利用頂きたい。



大澤壽人公式ホームページ
「大澤壽人 煌きの軌跡」
コンテンツ紹介



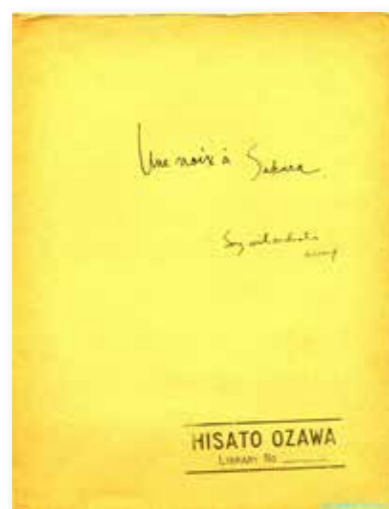
大澤壽人公式ホームページ
大澤壽人
煌きの軌跡

<https://osawa-project.org/>

大澤壽人



大澤壽人の代表的歌曲《桜に寄す Une voix à "SAKURA"》の楽譜がダウンロードできるようになりました。



楽譜のダウンロードはこちらから行えます。



<https://osawa-project.org/ScoreDownload/>

1935年にコンセルバトワール管弦楽団を率いて《交響曲第二番》《ピアノ協奏曲第二番 ト短調》などを発表。華麗なバリデビューを果たした。自ら書いた詩の中に古謡《さくらさくら》が織り込まれ、当時名を馳せていたロシアのソプラノ、マリア・クレンコが初演した。国内や海外で活躍する日本人歌手のレパートリーにふさわしい名作。

生涯



大澤壽人の生涯を4期に分けることで分かりやすくご紹介いたします。各期の作風も時勢の影響を受けながら変遷します。日本語/英語を選べます。

作品紹介



数多く残された大澤壽人の作品の一覧を解説付きでご紹介します。検索機能があるので簡単にチェックすることも可能です。

秘蔵資料



楽譜のダウンロードと大澤壽人の写真資料をご覧いただけます。

動画/音源



大澤壽人に関するインタビュー記録や演奏会の様子をご覧いただくため、動画を配信しております。CD音源(試聴版)などもこちらから聴いていただけます。

ディスコグラフィ



これまでに出版した楽譜、書籍、CDなどをご覧いただけます。

大澤壽人スペクタクル



2009年より開催している「大澤壽人スペクタクル」シリーズの演奏会の記録をご覧いただけます。

演奏記録



「大澤壽人スペクタクル」シリーズ以外の演奏会の記録、メディアで紹介された情報などを一覧でチェックできます。

